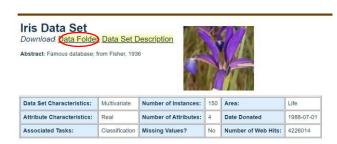
プロジェクト第2回

機械学習・データ解析

今回扱うデータセット

アヤメデータ(Iris dataset)

https://archive.ics.uci.edu/ml/datasets/Iris



1936年に生物学者Roland Fisherの論文に掲載された3種類の花の品種が含まれているデータセット

サンプル数	150
クラス数	3
特徴量	4つ

今回扱うデータセット

■クラス 3つの品種が含まれている





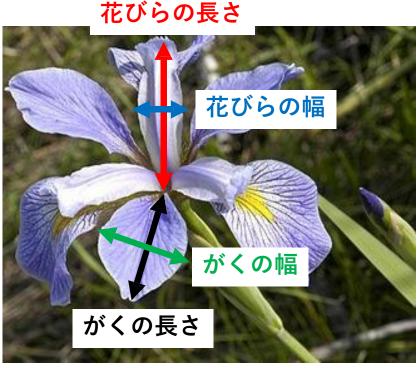
setosa (セトサ) versicolor (バージカラー)



virginica (バージニカ)

今回扱うデータセット

- ■特徴量(説明変数) 以下の4つの特徴量が含まれている
- がくの長さ
- ・ がくの幅
- 花びらの長さ
- ・ 花びらの幅



Index of /ml/r

- Parent Directory
- Index
- bezdekIris.data
- iris.data
- iris.names

iris (1) - メモ帳

ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H) 5. 1, 3. 5, 1. 4, 0. 2, Iris-setosa 4. 9, 3. 0, 1. 4, 0. 2, Iris-setosa 4. 7, 3. 2, 1. 3, 0. 2, Iris-setosa 4. 6, 3. 1, 1. 5, 0. 2, Iris-setosa 5. 0, 3. 6, 1. 4, 0. 2, Iris-setosa 5. 4, 3. 9, 1. 7, 0. 4, Iris-setosa 4. 6, 3. 4, 1. 4, 0. 3, Iris-setosa 5. 0, 3. 4. 1. 5, 0. 2, Iris-setosa

データセットのインポート

機械学習の便利な機能が使える「scikit-learn」と呼ばれる ライブラリを用いてデータセットを呼び出す。

Using keywords: Python scikit-learn

Find the information from Web to read

scikit-learnとは?

オープンソースで公開されているPythonの機械学習ライブラリ、無料で利用可能。

- ・機械学習モデルを簡単に構築できる(K近傍法、SVMなど)
- ・ データセットも公開されている(ボストンの住宅不動産の値段データセット、アヤメデータセット、手書き数字データセットなど)

データセットのインポート

以下のコードを実行するとインポートすることができ、 データの中身を確認できる。

from sklearn.datasets import load_iris

```
iris = load_iris()
print("入力データ")
print(iris.data)
print("¥n")
print("正解データ")
print(iris.target)
```

```
from sklearn.datasets import load iris
3 iris_data = load_iris()
 4 print("入力データ")
    print(iris_data.data)
    print("¥n")
    print("正解データ")
    print(iris data.target)
入力データ
[[5.1 3.5 1.4 0.2]
 [4.7 3.2 1.3 0.2]
 [5. 3.6 1.4 0.2]
 [4.6 3.4 1.4 0.3]
 [5. 3.4 1.5 0.2]
 [4.4 2.9 1.4 0.2]
[4.9 3.1 1.5 0.1]
 [5.4 3.7 1.5 0.2]
```

Pandas

このままだと見にくいためPandasと呼ばれるライブラリを使用する。

Pandasとはデータ解析を容易にする機能を提供するPythonのライブラリ。

Using keywords: Pandas

Find the information from Web to read

Ex1.Pandasを使ったデータの確認

```
import pandas as pd
iris = load iris()
#全部の行を表示させる
pd.set option('display.max_rows', None)
#データフレームの作成
data = pd.DataFrame(iris.data, columns=iris.feature_names) #属性
target = pd.DataFrame(iris.target, columns=['花の種類']) #ラベル
#花の種類の行と特徴量を表す行を<mark>結合</mark>させた表を表示
pd.concat([data,target], axis=1)
```

from sklearn.datasets import load iris

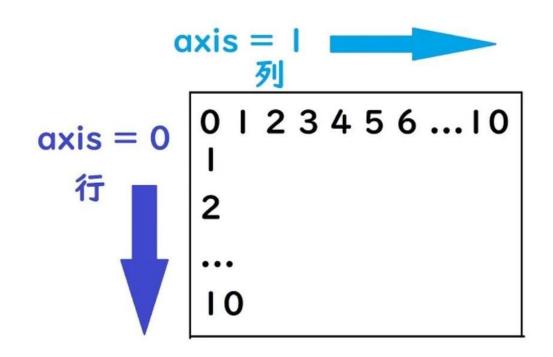
Ex1.Pandasを使ったデータの確認

実行すると見やすい表が出てくる。

```
from sklearn.datasets import load_iris
    import pandas as pd
    iris_data = load_iris()
    #全部の行を表示させる
    pd.set option('display.max rows', None)
10 data = pd.DataFrame(iris_data.data, columns=iris_data.feature_names)
    target = pd.DataFrame(iris data.target, columns=["花の種類"])
13 #花の種類の行と特徴量を表す行を結合させた表を表示
14 pd.concat([data,target], axis=1)
     sepal length (cm) sepal width (cm) petal length (cm) petal width (cm) 花の種類
                    5.1
                                      3.5
                                                         1.4
                                                                           0.2
 1
                    4.9
                                      3.0
                                                         1.4
                                                                           0.2
                                                                                      0
                                                                           0.2
                    4.7
                                      3.2
                                                         1.3
 3
                    4.6
                                      3.1
                                                         1.5
                                                                           0.2
                                                                                      0
                    5.0
                                      3.6
                                                         1.4
                                                                           0.2
                    5.4
                                      3.9
                                                         1.7
                                                                           0.4
                                                                                      0
                                                         1.4
                                                                           0.3
 7
                    5.0
                                      3.4
                                                         1.5
                                                                           0.2
                                                                                      0
                                                                           0.2
```

補足:axisとは

pd.concat([data,target], axis=1)で使用したaxisは行列の軸を指定する引数。axis=0は行、1は列を指定できる。



データセットの詳細

以下のコードを実行するとデータセットについての説明 を確認できる。

from sklearn.datasets import load_iris

iris = load_iris()
print(iris.DESCR)



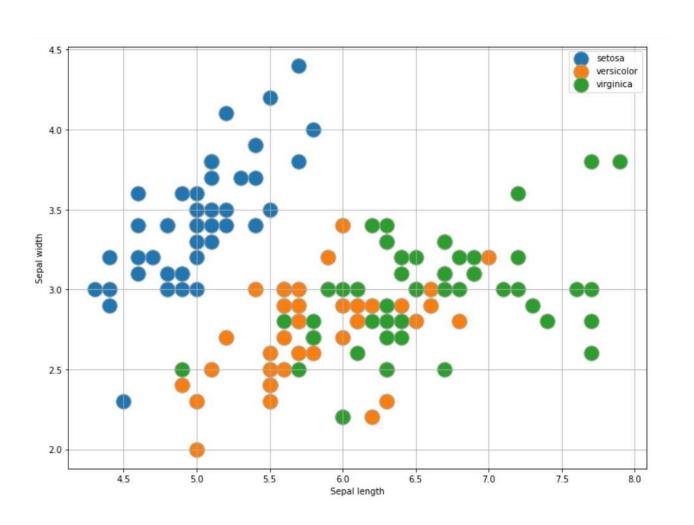
matplotlibと呼ばれるライブラリを用いて特徴量の分布を可視化する。matplotlibはグラフを描画させるためのpythonライブラリ。

※Ex2,3のコードで使用している関数の説明はAppendixに載せています。

以下のコードを実行してみる(がくの長さと幅の特徴量)。

```
import matplotlib.pyplot as plt
                                                              #インデントに注意
                                                              plt scatter()
plt.figure(figsize=(12,9))
                                                              plt.xlabel('Sepal length')
plt.clf()
                                                              plt.ylabel('Sepal width')
class num=3
                                                              plt.legend()
class label=['setosa','versicolor','virginica']
                                                              plt.grid(True)
#散布図の描画
def plt scatter():
 for i class in range(class num):
  plt.scatter(
    data[target["花の種類"]==i class]['sepal length (cm)'],
    data[target["花の種類"]==i class]['sepal width (cm)'],
    s = 300.
    cmap=plt.cm.Set2,
    label=class label[i class],
    edgecolor='darkgray'
```

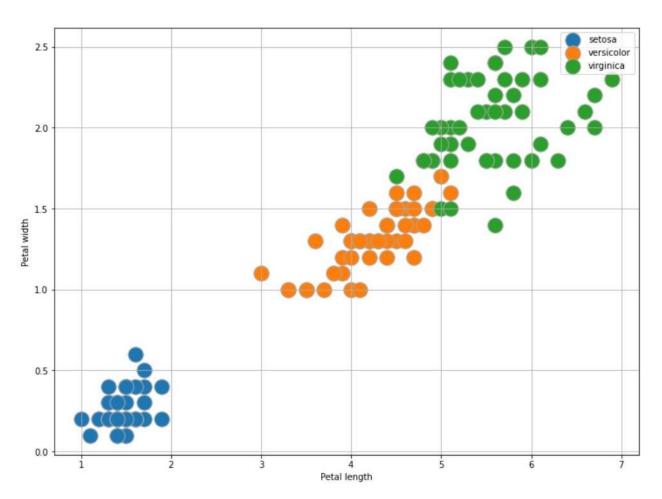
Versicolorとvirginicaが混在している。



以下のコードを実行してみる(花びらの長さと幅の特徴量)。

```
import matplotlib.pyplot as plt
                                                               #インデントに注意
                                                               plt scatter()
plt.figure(figsize=(12,9))
                                                               plt.xlabel('Petal length')
plt.clf()
                                                               plt.ylabel('Petal width')
class num=3
                                                               plt.legend()
class label=['setosa','versicolor','virginica']
                                                               plt.grid(True)
#散布図の描画
def plt scatter():
 for i class in range(class_num):
  plt.scatter(
    data[target["花の種類"]==i_class]['petal length (cm)'],
    data[target["花の種類"]==i_class]['petal width (cm)'],
    s=300,
    cmap=plt.cm.Set2,
    label=class label[i class],
    edgecolor='darkgray'
```

花びらの長さと幅の特徴量の方が、**3**クラス綺麗に分かれているので 境界線が引きやすい(分類しやすい)のではないかと推測できる。

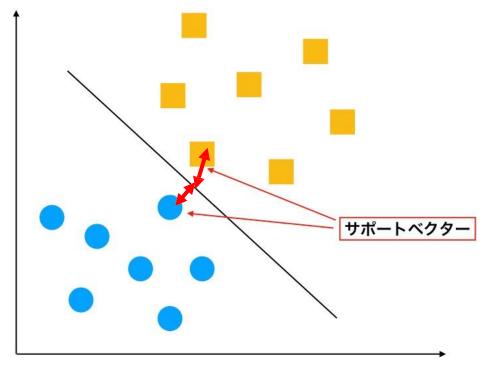


使用する機械学習モデル

今回はサポートベクターマシンと呼ばれる機械学習モデルを使用して、アヤメの識別器を作成する。

サポートベクターマシン(SVM)

機械学習の1つで各クラスのデータ点との距離が最大となるように線を引き、分類を行う。



Al Academy Media SVM(サポートベクターマシン)とは https://aiacademy.jp/media/?p=248(閲覧日: 2021/09/30)

演習1

• Ex1~Ex3までを実行してみる。また他の特徴量の組み合わせを可視化してみる(がくの幅と花びらの幅、がくの長さと花びらの長さなど)。

演習 1

Ex2,3で特徴量を指定する場合、 plt.scatterの引数にある以下の**赤字部分** をそれぞれ変更して取り出す。 i_classの部分はクラスラベルの数字 (setosaが 0、 versicolorが 1、 virginicaが 2)が含まれている。

```
plt.scatter(
data[target["花の種類"]==i_class]['sepal length (cm)']
data[target["花の種類"]==i_class]['sepal width (cm)']
...
)
```

■特徴量一覧

特徴量名称	対応する名前
がくの長さ	'sepal length (cm)'
がくの幅	'sepal width (cm)'
花びらの長さ	'petal length (cm)'
花びらの幅	'petal width (cm)'

演習を早く終わった人 (optional)

アヤメデータ以外のデータセット (scikit-learnのサンプルデータなど)を調査してみる。

appendix

plt.figure(figsize=(12,9))

図の初期設定、figsizeでサイズを指定できる。

plt.clf()

図を初期化する

plt.scatter

散布図を描画

引数	説明
x,y	使用するデータ(Ex2 なら がくの長さと幅)
S	散布図の出力サイズ
cmap	カラーマップ
label	ラベルの名前
edgecolor	線の色

data[target["花の種類"]==i_class]['sepal length (cm)']

dataはpandasのDataframeであるので、data[target["花の種類"]==i_class]

と指定することでi_class(アヤメのクラス)に該当するデータを取得し、
['sepal length (cm)']とすることでがくの長さを取得できる。

data[(target==i_class).values]['sepal length (cm)']

i_classのvalues(特徴量)を取得し、さらに'sepal length (cm)'だけ表示。

演習1補足

Iris_dataからも特徴量を取り出せる。特徴量を変えるときは以下の 赤印部分を変更する。0が「がくの長さ」、1が「がくの幅」、2は 「花びらの長さ」、3は「花びらの幅」。

#0番目と1番目の特徴量が取り出せる first_two_features=iris.data[:, [0,1]]

#2番目と3番目の特徴量が取り出せる last_two_features=iris.data[:, [2,3]]